

岩見沢市の中心市街地活性化基本計画について

岩見沢市経済部商工観光課 海老原 照和

1. はじめに

岩見沢市は北海道の道央圏に位置し、札幌市から東方約40kmの石狩平野東部にあり、面積481.10km²、人口は約9万1千人となっています。

鉄道2本と国道2本が交わる交通の要衝の地であり、岩見沢駅から札幌駅までは特急列車で約25分と札幌方面や新千歳空港への交通利便性が高くなっています。

岩見沢市は明治17・18年の入植以来、士族移住により開拓され、明治20年頃には元町地区に市街地の形態がみられるようになってきました。

周辺産炭地の発展とともに岩見沢市は空知の商業、行政、教育の中心都市として発展してきましたが、昭和30年代後半に入ると石炭産業が斜陽化して炭鉱が相次いで閉山し、また、昭和49年に国道12号のバイパスが完成した頃から商業施設の郊外出店が多く見られ、中心市街地の空洞化が目立ってきました。

このように中心市街地を取り巻く状況が大きく変化している中、これからの少子高齢化が進む社会で中心市街地の果たす役割は重要になると考え、新しい中心市街地活性化基本計画の作成に取り組み、平成20年11月に認定を受けました。

2. 中心市街地の課題

中心市街地の課題として、次の6つをあげることができます。

①まちなか居住の促進	居住者のニーズに合った取得可能な住宅の供給を進めるとともに、必要な情報等を十分に提供していく必要がある。
②居住環境の向上	高齢化と世帯分離が進行しており、福祉・医療・保育などの暮らしを支援する機能を充実させていく必要がある。
③回遊したくなる魅力の向上	整備された交流施設やイベント広場を活用して、交流やふれあいのできる日常的なイベントを展開していく必要がある。
④交通利便性の向上	使いやすい駐車場づくりやバスの利便性向上を図って、中心市街地に行きやすい環境づくりを進める必要がある。
⑤地域内雇用の創出	岩見沢市の持つ情報通信基盤等を活かしたIT関連企業の誘致を進めるとともに、コミュニティビジネスなど地域に密着した起業化の支援に取り組んで、地域内雇用の創出を図っていく必要がある。
⑥地域資源の活用	岩見沢市の基幹産業である農業と連携し、地場農産品の販売などによる地産地消の取り組みが求められている。

3. 区域

中心市街地の区域は、商業業務施設が集積している地区を核として、JR岩見沢駅北側の事業実施中の地区及びまちなか居住を実現していく上で必要となる地区を含めて、面積147haに設定しました。

4. 中心市街地活性化の基本方針と数値目標

次の3つの基本方針と目標を設定し、活性化を進めていきます。

基本方針Ⅰ

住みたいと思う暮らし環境づくり
目標① まちなか住まいを促進する

数値指標① 中心市街地居住者人口

現況値 (H 19 年) : 4,740 人



目標値 (H 24 年) : 5,000 人

基本方針Ⅱ

ふれあいと交流のある賑わいづくり
目標② まちなか回遊を促進する

数値指標② 中心市街地歩行者通行量 (平日)

現況値 (H 19 年) : 5,356 人



目標値 (H 24 年) : 5,700 人

基本方針Ⅲ

地域産業の活力を生み出す環境づくり
目標③ まちなか雇用を促進する

数値指標③ 中心市街地従業者数

現況値 (H 18 年) : 8,840 人



目標値 (H 24 年) : 8,900 人

5. 中心市街地活性化のための主な事業

① 駅周辺地区整備

JR 岩見沢駅舎と一体となった有明交流プラザ (市民サービスセンター、情報拠点等) と南北自由通路、屋内駐輪場が整備され、平成 21 年 3 月に供用が開始されました。また、JR 函館本線北側を土地区画整理事業により整備しています (面積 7.6ha)。



② 駅前通整備事業

道路の拡幅整備 (18 m → 22 m) に合わせて歩道照明や案内標識の設置、ロードヒーティングの整備等を行います。また、建物の建て替えにより沿道景観の形成を図ります。

③ 4・3 地区再開発事業

ナカノタナ市場の跡地を再開発し、1階に公益施設 (岩見沢市ワークプラザ)、音楽スタジオ (入居者専用)、2階以上に 47 戸の賃貸住宅を整備しました。



④ ラルズ跡地活用事業

大規模店舗跡地の空き地を活用して、対面式のこだわり商店が集合した共同店舗、無料休憩所、ユニバーサルトイレ、カフェや駐車場を整備し、広場においてイベントを定期的に開催します。



6. おわりに

活性化基本計画認定後、中心市街地の居住人口が増加に転じている一方で、3月31日には中心市街地唯一の大規模店舗であった西友が閉店するなど、中心市街地にとって厳しい状況が続いています。今後は西友の入っていたビルの再生を進めるとともに、市民、商業者、行政が一体となって、基本計画に位置づけられた事業を推進していきたいと考えています。(えびはら のぶかず)